

# 2024年度夏渡航 現地活動報告書

2024年8月3日～8月14日  
プノンペン州、コンポントム州



## <渡航メンバー>

3年次生

鈴木大翔、箕輪拓朗

2年次生

渡邊 光起、浅野 浩太、山崎 良智嘉、鈴木龍青、武山由奈

1年次生

狩谷真大、矢口拓弥、平野楓、大野シーナメイ、内田実花

# 目次

1. 団体概要.....	3
2. 渡航概要.....	4
3. カンボジア王国基礎情報.....	6
4. 支援先概要.....	7
5. プロジェクト.....	8
1) ウォーターフェスティバル .....	8
2) 運動会.....	11
3) 古着.....	14
4) 遊具.....	16
5) 井戸.....	18
6. 会計報告.....	20
7. メンバーの感想.....	21
8. 終わりに.....	25

# 1. 団体概要

## 【設立】

私たちは、麗澤大学の3年生2人、2年生5人、1年生5人の合計12名で活動している国際協力団体Plas+です。「プラス」とお読み下さい。Plas+とは“Present love to all students”の略で、“すべての子どもたちに愛を”をモットーに活動を行っています。映画『僕たちは世界を変えることができない』に感化され、「私たちもカンボジアで何かしたい！」と考え、2014年4月26日、当時の学生により設立されました。現在は、一般財団法人麗澤海外開発協会(RODA)が、資金援助してカンボジアに建設したトム・オー小学校、ベンロヴェア・レー小学校、トラム・クラ小学校を拠点として、様々な活動を展開しています。

## 【これまでの活動】

結成1年目は、カンボジアや国際協力について学習を始め、私たちにできることを探し、初めて現地を訪れました。2年目からは自主企画ゼミナールとしてPlas+の活動を申請し、大学にも認知される団体となりました。そして担当教員である麗澤大学外国語学部講師(当時)の内尾太一先生と共に、インタビューリレー等の学習活動を行い、「学生の私たちにできることは何か」を模索しました。また、過去にはフィリピンでも活動を行っていました。

新型コロナウイルス以前までは、カンボジア渡航を継続的に行い、出前授業、塀建設、運動会等の国際交流・国際協力プロジェクトを実施してきました。また、現地調査では小学校の教員・生徒・保護者の方などにインタビューを行い、現地の問題やニーズなどを整理して、次のプロジェクト計画に繋げています。

しかし、パンデミック後は3年間渡航ができず、国内から行える文房具支援等を実施していました。2023年度の渡航はパンデミック後初の渡航となり、学生17名・同行教員1名で2つのプロジェクトと現地調査を行いました。

## 2. 渡航概要

### 【目的】

- ・前回の渡航で行った現地調査を基に小学校で不足している井戸と遊具を設置し、より良い環境に整える。
- ・情操教育の不十分な学校でのプロジェクトを実施し、心を育む豊かな日本の教育を提供する。

### 【内容】

プロジェクト5点の実施、文化・歴史学習

### 【渡航日程】

- 8月3日(土) 10:20 成田発
- 8月4日(日) 17:25 プノンペン着
- 8月5日(月) トム・オーゲストハウスへ移動
- 8月6日(火) ベン・ロヴィア・レー小学校 遊具のペンキ塗り・セレモニー
- 8月7日(水) ベン・ロヴィア・レー小学 ウォーターフェスティバル・古着プレゼント
- 8月8日(木) トム・オー小学校 井戸完成セレモニー
- 8月9日(金) トム・オー小学校 運動会
- 8月10日(土) プノンペン着
- 8月11日(日) プノンペン観光
- 8月12日(月) AM:キリングフィールド PM:トゥルスレン虐殺博物館
- 8月13日(火) 18:20 プノンペン発
- 8月14日(水) 18:05 成田着 解散

## 【参加者名簿】

	氏名	学年	学部	学科	専攻
1	鈴木大翔（代表）	3	外国語	外国語	英語リベラルアーツ
2	箕輪拓朗	3	経済	経営	経営
3	渡邊 光起（副代表）	2	経済	経済	経済
4	山崎 良智嘉	2	外国語	外国語	英語コミュニケーション
5	浅野 浩太	2	経済	経営	経営
6	鈴木龍青	2	外国語	外国語	中国語・グローバルコミュニケーション
7	武山由奈	2			
8	狩谷真大	1	外国語	外国語	英語コミュニケーション
9	矢口拓弥	1	国際	国際	国際交流・国際協力 (IEC)
10	平野楓	1	外国語	外国語	中国語・グローバルコミュニケーション
11	大野シーナメイ	1			
12	内田実花	1	国際	国際	国際交流・国際協力 (IEC)
同行	松島 正明 教授		国際	国際	国際交流・国際協力 (IEC)

### 3. カンボジア王国基礎情報

首都:プノンペン 人口:17.2百万人(2022年国連人口基金)

面積:18.1万km<sup>2</sup>

一人当たりの国内総所得:950米ドル

公用語:カンボジア語(クメール語)

主要産業:農業・縫製業・建設業・観光業

#### 【近代以降の略史】

1863年 フランスの保護国となる。

1887年 フランス領インドシナに編入される。

1945年 カンボジア王国として独立を宣言する。

1947年 フランス連合内で限定独立を遂げる。

1953年に完全独立を獲得する。

1970年 親米のロン＝ノル将軍が実権を掌握する。共和制へ移行したが、内戦が始まる。1975年 クメール＝ルージュがプノンペンを陥落させ、実権を掌握し、民主カンボジア政権(ポル＝ポト政権)が樹立する。この間、大量虐殺が実行された。

1979年 ベトナム軍の支援で救国民族統一戦線がプノンペンを侵略し、カンプチア人民共和国(ヘン＝サムリン政権)を樹立する。

1982年 ロン＝ノルのクーデターで追放されていた元国家元首シアヌークらが民主カンボジア連合政府を樹立し、内戦が激化する。

1989年 ベトナム軍が完全撤退する。

1993年 王政が復活し、現在まで続くカンボジア王国が誕生する。

【参考】二宮書店編集部(2016)「カンボジア王国」『データブック・オブ・ザ・ワールド 2016年度版』pp.186～188、二宮書店。

## 4. 支援先概要

### 1) トラム・クラ小学校

生徒: 217人 ※2024年2月渡航調査によるデータより

校長: ネアン・ネン先生

教員: 8名

教科書: 政府からの配布

時程: 午前と午後の2部制

主要科目: クメール語、算数、理科、カンボジア文化、体育 (簡易的なもの)、英語 (4～6年生)

### 2) ベン・ロヴィア・レー小学校

生徒: 150人 ※2024年2月渡航調査によるデータより

校長: チェアツ・ソケアン先生

教員: 3名

教科書: 政府からの配布

時程: 午前 7時～11時 1、2、5、6年生

午後 13時～17時 3、4年生

主要科目: クメール語、算数、カンボジア文化、理科、英語 (4年生から)

授業の前に約40分体操、小さい頃は絵を描く授業もある

### 3) トム・オー小学校

生徒: 146人 ※2024年2月渡航調査によるデータより

校長: レアヴ・ティナ先生

教員: 4名

教科書: 政府からの配布、他の文具は各自で購入、優秀者にはプレゼントがある

時程: 午前と午後の2部制

主要科目: クメール語、読み書き、算数、社会、歴史、4年生、6年生は外国語

今回の渡航では、(2)ベン・ロヴィア・レー小学校、(3)トム・オー小学校へ支援を行った。

## 5. プロジェクト

### 1) ウォーターフェスティバル

ウォーターフェスティバル計画書	
目的	・体を動かしてもらい、情操教育の浸透を図る またプロジェクトを通して楽しい思い出を作ってもらおう
ねらい	・情操教育の重要性を楽しみながら感じてもらい、また現地の子どもたちとPlasメンバーの交流を図る
ニーズ	・情操教育が整っていない
実施期間	準備期間:2024年3月～2024年7月 渡航期間:2024年8月3日～8月14日 実施日:2024年8月7日(ベン・ロヴィア・レー)
実施場所	ベン・ロヴィア・レー小学校
対象者(人数)	約150人
メンバー・担当名	4 土田明日香 3 箕輪拓朗 2 武山由奈 1 内田実花 1 平野楓 1 大野シーナメイ (1) 飴谷麗加 準備のみ参加 (1) 落合はおり 準備のみ参加 (1) 伊藤佑果 準備のみ参加 (1) 土子亮汰 準備のみ参加
実施概要	<p>・シャボン玉 (40min)            ー注意事項の説明            ー10組(生徒15人+Plas+メンバー1人)に分かれて実施</p> <p>・休憩 (20min)            ー水鉄砲の企画の準備            ーそれ以外のメンバーは子供たちと触れ合う</p> <p>・水鉄砲 (30min)            ーハチマキ・ポイを配布            ー水鉄砲は数に限りがあるため順番に使用            水鉄砲を持たない人は逃げる</p> <p>・水風船 (30min)            ー3チームに分かれ、2チームずつ対決</p>
必要資材	シャボン玉液(食器用洗剤で代用)、ストロー、コップ、水鉄砲、

	水風船、ポイ
必要経費	水鉄砲①(日本で購入) (11個) 水鉄砲②(現地調達) (8個) 水風船 (100個×4袋) ストロー (80本×3袋) 食器用洗剤(現地調達) (700ml×2本) ポイ (100個×4袋) <hr/> 合計 8000円
準備計画	5月 計画書作成 6月 予算算出 7月 買い出し、資料作成、最終確認 8月 プロジェクト実施へ

## 【プロジェクトを振り返って】

ウォーターフェスティバルでは、シャボン玉班と水鉄砲班に分かれ、企画運営を行いました。

シャボン玉班では、まず材料調べから、日本で購入するか現地で購入するかを考え、工夫が必要なシャボン玉を吹くためのストローのみ購入し準備をして行きました。シャボン玉液がつきやすくなるように先端をたこ足のように切り、誤飲の危険がないように、上の方に切り込みを入れて液体が口まで上ってこないような工夫を考え、メンバー全員で作りました。

シャボン玉液の購入ができなかったトラブルがありましたが、食器用洗剤で代用のシャボン玉液を作ってプロジェクトを成功させることができ臨機応変に動くことの大切さやその場で次の策を考える力を学びました。子供たちの楽しそうに遊ぶ姿やシャボン玉の液を付ける時に譲りあったり、年上の子が小さい子を連れてきてあげる姿を見ることができてうれしく思いました。

水鉄砲班では、ただ単に水鉄砲で遊ぶのではなく、頭にはちまきと一緒に金魚すくいのポイを装着し、撃ち合うというチーム戦の企画を考えました。空港の手荷物検査で水鉄砲が回収されてしまうトラブルがありましたが、現地での購入と、全員が楽しめるように水風船も購入し、より良い企画を実施することができました。

企画終了後もメンバーで片付けやゴミ拾いをしているとたくさんの子供たちが一緒にゴミ拾いを手伝ってくれるなど、ウォーターフェスティバルを通して、多くの子どもたちの絆や学校行事の1つとしての思い出を作ることができ嬉しく感じました。

また通訳の方がきちんと注意事項を子供たちに伝えてくれて安全に実施することができ、Plas+のメンバーや先生方、子供たちが協力してくれたことで楽しい思い出を作ることができました。今後も子供たちが楽しめるような企画ができるように励んでいきたいと思えます。

(ウォーターフェスティバルプロジェクトチーム)



## 2) 運動会

運動会計画書	
目的	体を動かす楽しさを知ってもらいつつ、情操教育の浸透につなげる
ねらい	・情操教育の重要性を楽しみながら感じてもらい、また現地の子どもたちとPlasメンバーの交流を図る
ニーズ	・情操教育が整っていない ・現地の子供たちにたくさん身体を動かして
実施期間	準備期間:2024年3月～2024年7月 渡航期間:2024年8月3日～8月14日 実施日:2024年8月9日
実施場所	トム・オー小学校
対象者(人数)	1校約96人
メンバー・担当	2山崎 良智嘉 2浅野 浩太 1狩谷真大 (1 太田勘太)準備のみ参加 (1 広瀬澄美)準備のみ参加 (1 中島杏) 準備のみ参加 (1 古山莉琴)準備のみ参加
実施概要	・ラジオ体操(5min) ・徒競走(20min) ールール説明  ・休憩(5min) ー準備含む  ・綱引き(35min) ールール説明 ートーナメント戦  ・休憩(5min) ー準備含む  ・二人三脚(30min) ールール説明
必要資材	縄、ハチマキ、スピーカー
必要経費	縄(現地調達) 4500円 <hr/> 合計 4500円

準備計画	5月 計画書作成 6月 予算算出、資料作成 7月 最終確認 8月 プロジェクト実施
------	--

## 【プロジェクトを振り返って】

前回の運動会を参考にして、子供たち全員が楽しめるように、競技種目を多く設けました。何度もミーティングを重ね、子供たちの間に個人差があっても不平等にならないよう、細心の注意を払いながら計画しました。まず運動会の定番である徒競走を行い、次にチーム全員で力を合わせて競う綱引き、そして最後に2人組で協力してゴールを目指す二人三脚を行いました。実際に現地に赴き、チーム分けがスムーズにできるか、種目の説明が正確に伝わるか、また計画通りに進行できるかどうかについて不安がありました。

運動会当日の朝、運動会に必要なハチマキの一部を宿泊所に忘れてしまうというハプニングがあり急いで取りに戻りましたが、前回の経験もあり運動会は予想以上にスムーズに進行しました。また取りに戻っている間子供たちが一人ずつみんなの前で歌を披露してくれました。上手に大きな声で歌ってくれたため、私たちの焦りも、この後の行動で巻き返していこうというように気持ちを立て直すことができました。

実際に競技が始まると、通訳の方にしっかりとルール説明を行ってもらい、問題なく運動会を進行することができました。今回新たに実施した二人三脚の競技では、子供たちに二人三脚の概念がなくうまく足に結べない子がいたり、ペアの一人が倒れてしまっても進もうとしてしまう子がいたりとうまく競技の説明が伝わらなかった部分もあったため次回以降に生かしたいと思います。

子供たちはみんな笑顔で楽しそうに遊んでくれており、このプロジェクトを実行して本当に良かったと感じました。運動会の成功は、事前の準備とチームワークの賜物だと実感し、今後の活動にも大きな自信を得ることができました。この経験を糧に、これからも多くの子供たちに笑顔を届けられるよう、努力を続けていきたいと思っています。

(運動会プロジェクトチーム)



### 3) 古着

古着計画書	
目的	服不足を解消する
ニーズ	子供たちの服が足りない
実施期間	準備期間:2024年3月~2024年7月 渡航期間:2024年8月3日~8月14日 実施日:2024年8月7日
実施場所	ベン・ロヴィア・レー小学校
準備計画	3月 計画書作成 4月 予算算出 5.6月 買い出し、資料作成 7月 最終確認 8月 プロジェクト実施

## 【プロジェクトを振り返って】

今回、古着を集めるにあたって、麗澤幼稚園と光ヶ丘小学校に協力を頂きました。生徒の皆さんに多くの古着を寄付して頂いたので、今回は訪問できなかった小学校にも分け次回の渡航でまたプレゼントさせていただきます。今回プレゼントする古着はクリーニングに出して準備を行い、メンバーのみんなで分け工夫してパッキングし小学校まで持っていきました。

寄付していただいた古着はベン・ロヴィア・レー小学校で配り、子供たち一人一人の身長を見ながらデザインやサイズを考えて渡していきました。思っていたよりも身長が高い子が多く服のサイズを合わせていくのが大変だったので次回の活動で生かしていきたいと思います。

子供たちが受け取ったときに「オークン(ありがとう)」と手を合わせて言ってくれて、日本の子供たちとカンボジアの子供たちが古着を通して繋がったように思い嬉しかったです。またそれを繋げることができたという達成感も感じることができました。

改めてご協力いただいた麗澤幼稚園と光ヶ丘小学校の生徒の皆様、先生方、保護者の皆様、ご協力いただいた麗澤大学の職員の方々にも心より感謝申し上げます。



## 4) 遊具

遊具計画書	
目的	体を動かすことで子供たちの運動機能を向上させ、心身が健全に育成させること
ねらい	子供たちが普段使わない筋力や能力などを使い、身体の各部の成長を促進したりすることに役立てること
ニーズ	校庭に遊具がないため建てて欲しい
実施期間	準備期間:2024年3月～2024年7月 渡航期間:2024年8月3日～8月14日
実施場所	ベン・ロヴィア・レー小学校
必要経費	195000円 50000円（調査費等） <hr/> 合計 245000円
準備計画	3月 計画書作成 4月 予算算出 5.6月 買い出し、資料作成 7月 最終確認、プロジェクト実施

## 【プロジェクトを振り返って】

クラウドファンディングや伝統の日の募金活動などを通して寄付金を募り、その寄付金でベン・ロヴィア・レー小学校にブランコ、滑り台、シーソーの3つの遊具を建設させていただきました。

募金活動では自分たちがどのような目的を持って渡航するのか、そもそもPlas+とはどのような団体なのかを伝えながら活動を行い、多くの方々にご協力を頂きました。また伝統の日の中では、昨年度の渡航で購入した現地のお土産を販売し、そこで出た利益もプロジェクトなどで使用させて頂きました。

現地ではセレモニーを開催し、Plas+のメンバーたちが遊具を大切に使うようそれぞれの思いを伝えました。また遊具の色塗りはPlas+のメンバーたちが行いました。子供たちがすぐにあそんでも手にペンキがついてしまわないよう、塗る場所に注意しながらカラフルに仕上げました。セレモニーが終わると多くの子供たちが遊具に駆け寄って笑顔で遊ぶ姿が見られ私たちもうれしい気持ちになりました。

子供たちの遊びの選択肢を広げることができ、楽しむ子供たちの笑顔に元気と感動をもらいました。募金活動に協力してくださった皆様、遊具の建設に携わってくださった方々に感謝申し上げます。



## 5) 井戸

運動会計画書	
目的	カンボジアの方たちにきれいで新鮮な水を届けること
ねらい	現地の人たちが安心安全に水を飲めるようになること
ニーズ	井戸が壊れ、トイレも使えないため新しい井戸が欲しい。
実施期間	準備期間:2024年3月～2024年7月 渡航期間:2024年8月3日～8月14日 実施期間:2024年8月8日
実施場所	トム・オー小学校
必要経費	375000円 50000円(調査費等) ----- 合計 425000円
準備計画	3月 計画書作成 4.5月 予算算出 6月 買い出し、資料作成 7月 最終確認、プロジェクト実施

## 【プロジェクトを振り返って】

クラウドファンディングや伝統の日の募金活動などを通して寄付金を募り、その寄付金でトム・オー小学校に井戸を建設させていただきました。

伝統の日の募金活動では、自分たちがどのような目的を持って渡航するのか、そもそもPlas+とはどのような団体なのかを伝え、多くの方々にご協力を頂きました。また伝統の日では、昨年度の渡航で購入した現地のお土産を販売し、そこでの利益もプロジェクトの費用として使用させていただきました。

現地ではセレモニーを開催し、井戸を大切に使うてもらえるように、Plas+のメンバーたちがそれぞれの想いを伝えました。また小学校で昼食をふるまってもらった際、実際にPlas+のメンバーたちでハンドルを押下げて子供たちに手を洗ってもらいました。今後状況を見ながら電動での水のくみ上げも開始する予定です。

子供たちが運動会のプロジェクトの後や昼食の前に井戸で手や顔を洗ってスッキリしている姿を見て、井戸が役立っていることに達成感やうれしさを感じました。これからも井戸が大切に使われていくことを楽しみにして帰ってくることができました。改めて、募金活動へご協力いただいた皆様、井戸の建設に携わっていただいた皆様へ感謝申し上げます。



## 6. 会計報告

支出	金額(ドル)	(円)	備考
バン	\$1,500.00		
通訳	\$960.00		\$80×2人×6日間
運動会プロジェクト	\$30.00	¥4500	詳細は計画書を参照
ウォーターフェスティバルプロジェクト	\$53.33	¥8000	詳細は計画書を参照
井戸建設	\$2,500.00		
遊具建設	\$1,300.00		
両セレモニー	\$400.00		
事前調査費	\$240.00		
合計	\$6,983.33		

収入	金額(ドル)	(円)	備考
RODA渡航助成金	\$1,600.00	¥240,000	20000円×12名
メンバー負担	\$860.00		
クラウドファンディング	\$3,324.56	¥498,684	
Plas+金	\$1,198.77		
合計	\$6,983.33		

※元の金額が円の項目は、1ドル／150円で計算

「RODA渡航助成金」は渡航時のバンチャーター代、通訳代に使用させて頂きました。  
ご支援誠にありがとうございました。

## 7. メンバーの感想

### 「2024年度前期の活動・渡航を通して」

#### 【2024年度代表】

鈴木大翔(外国語学部 外国語学科 英語リベラルアーツ専攻 3年次生)

今回のプロジェクトは事前準備がとて多く大変だった。井戸や遊具を建設するためにまずは資金集めから始まり、その後現地の人と価格交渉や内容決定をした。交流企画と違って後に残るもののため常にそのことを考えながら準備した。実際に現地に行くと半年前にはなかった遊具、井戸が完成しておりPlas+の名前が刻まれていてとても満足した。ただつくったが終わりではなくアフターサービスを徹底したい。持続的に一方的に支援して終わりにしたくないと感じた。

#### 【2024年度副代表】

渡邊光起(経済学部 経済学科 経済専攻2年次生)

前期の活動では新入生歓迎から伝統の日そして渡航プロジェクトまで行い、とても濃い活動を行いました。伝統の日では新入生を迎えての初めてのみんなでの活動となりましたが一人一人が協力してスムーズに出店や募金の呼びかけができたと思います。渡航プロジェクトでは遊具や井戸を設置するためにクラウドファンディングでとても高い目標金額も達成することができ、色んな人に支えられて僕たちは支援できているなど実感しました。そして実際に渡航しカンボジアの子供たちが遊具を使って遊んだり、井戸の水で手を洗ったりしているのを見て僕たちが今までプロジェクトを考えて行ったことも意味のあることで子供たちに役立っているのだなと思いました。なにより、このメンバーでここまでやってきたことが自分にとってとても良い経験となりました。

#### 【3年次生】

・箕輪拓朗(経済学部 経営学科 経営専攻)

カンボジアは発展途上国であり、日本のようにインフラが整っていないので、カンボジアの人々、特に田舎に住んでいる人々に関しては貧しい生活だったり不便の多い中の生活のため、元気が無い子供や悲惨な現実を見ることになるのだろうと覚悟をしていました。しかし、小学生のみんなはとても陽気に僕たちに関わってくれて、田舎の方々もとても優しく接してくれました。これは日本でもよくあることです。この環境でも、人に優しくできる余裕を持っていたり、一喜一憂することができるのは幸せである証拠だと感じました。国が発展することでいい方向に行くことは間違いないと思いますが、発展途上国だからといって幸せではないということだと今回の渡航で感じました。そのうえで今のカンボジアには何が足りないのかを見極めることが重要だと感じました。

## 【2年次生】

### ・山崎良智嘉(外国語学部 外国語学科 英語コミュニケーション専攻)

今回、二回目のカンボジア渡航を経験して自分たちがどれほど恵まれた環境で生活することができるのかを改めて実感することができた。準備期間が短かったが、Plas+のメンバー全員が協力したおかげで二つの小学校に遊具と井戸をそれぞれ建設し、ウォーターフェスティバルと運動会を実施することができた。自分がこのメンバーの一員になれたことを光栄に思う。今回の渡航で感じたことは都市部と農村部の格差だ。プノンペンのイオンモールにいる子供とコンポントムの村で生活している子供とは明らかに身なりも生活も異なるのが分かる。しかしプノンペンにも自分たちのような観光客にお金を求めてくるストリートチルドレンがいることを今回の渡航で認識した。今年は二年生の先輩として後輩の手本になれるよう渡航中も意識していたが、上手くはいかなかった。手本どころか心配されていたと思う。一年半Plas+で活動してきたが、今学期から自分はこのままでいいのかと自問自答する日々が続いている。カンボジアでボランティア活動をしていることが、ただ自分の満足感に浸っているだけのように感じる。ただただ考える日々が続いているが、それでも自分にできることをこれからも続けていきたい。

### ・鈴木龍青(外国語学部 外国語学科 中国語・グローバルコミュニケーション専攻)

私は今学期の途中からPlus+に加入したため、今学期の初めから参加している皆さんに比べて少し遅れてこの活動に参加しました。そのため、皆さんが既に理解している部分を自分がまだ十分に理解できていなかったり、渡航前には迷惑をかけてしまう場面もあったかと思えます。しかし、渡航後は過去の海外経験を活かして、初めて海外に行くメンバーたちの力になることができました。また小学校での活動では、自分なりにできることや手伝えることに積極的に取り組みました。仲間たちと過ごした10日間はあっという間で、とても充実した時間でした。今回の活動を通して、新たな価値観が芽生え、これからの日々の生活でも活力を持って様々なことに取り組んでいきたいと思えます。

### ・武山由奈(外国語学部 外国語学科 中国語・グローバルコミュニケーション専攻)

前期の活動で主に小学校で行う企画のウォーターフェスティバルの計画をした。その中でもシャボン玉の担当をし、誤飲した際の対応や実施中の注意事項、吹くための物を決めた。数が多く必要になることから吹く道具はストローを使用し、たくさんシャボン玉を作るための切り込みや誤飲防止の切り口を作るなどの工夫を行った。実際に行う際、現地で購入予定だったシャボン玉液を買い忘れてしまい、使用する道具を管理しきれなかったことに落ち込み、反省した。しかしカウンターパートやメンバーの励ましやアドバイスもあり、食器用洗剤を使用した代用品を作り無事に実施することができた。失敗はあったがすぐに次の行動を起こすことの大切さを学ぶことができ良い経験になった。また子供たちが楽しそうにシャボン玉で遊ぶ姿を見て、実施できるように最後まで諦めずに代用品を用意して良かったと思ったしとてもうれしかった。

### ・浅野浩太(経済学部 経済学科 経営専攻)

僕は、前回に引き続き2回目の渡航をしました。前回の渡航から半年くらいしか経ってなくて大まかなことやどんなことに気をつけたらいいのか、何を持っていけばいいか前回よりもスムーズに理解出来ました。前回と同じ学校に行き井戸を作ったり、遊具を作ったり運動会をしました。テープカットの時に色んなお偉いさんたちが来ていて少し緊張しました。中でも運動会は今回の渡航で1番の思い出です。前回の渡航の時も運動会をしました。今回は前回の容量を分かっていたのでより素早く行動できたり説明もよりわかりやすい言葉を選んで出来ました。子供達が元気に走り回ったりするのを見てたくさんのお金をもらうことができました。また、前回会った子供達に覚えてもらっていたというのもいい思い出です。前回よりも少し大人になっていてビックリしました。今回の渡航は前回と違い熱中症でダウンする人もいなくとてもスムーズに行えてとても良かったです。次回の渡航も行けるように頑張ります

## 【1年次生】

### ・狩谷真大(外国語学部 外国語学科 英語コミュニケーション専攻)

前期活動を振り返ってみると、とても充実した時間を過ごすことができたと思います。僕は興味本位で始めたこの活動に今とても達成感を感じる事が出来て行ってよかったなと思います。Plasでの活動一つ一つに先輩や友達との協力や、沢山の人の繋がりそして沢山のおもしろさがあったなと思います。海外支援をメインとした活動はほとんどが初めてであり、渡航を通して途上国の現実であったり途上国にしか出せない魅力や価値を実際にみることが出来ました。情報でしか得ていなかったカンボジアの状況を自分の目でみることは今までの経験をはるかに超える貴重さと充実で溢れていて全てにおいて刺激を受け続ける毎日でした。言葉では表しきれないこの気持ちをこれからの活動でより多くのメンバーや少しでも気になっている方たちと一緒に経験して楽しんでいきたいなと思いました。

### ・矢口拓弥(国際学部 国際学科 国際交流・国際協力専攻)

私は今回の渡航が人生で初めての海外経験でした。様々な事を体験し、多くのことを学びたいという気持ちで、今回の渡航に参加しました。飛行機や目的地までの移動がとても長く、長旅の疲れもありました。ですが、現地に着くと小学校の子供たちが笑顔で向かい入れてくれたのでとてもほっとしました。2つの小学校で、井戸のセレモニー、運動会、ウォーターフェスティバル、古着をプレゼントなど、様々なイベントを行いました。終始子供たちは笑顔で私たちをもてなしてくれたり、外でたくさん遊んだり、英語を勉強したり、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。そんなカンボジアの子供たちの笑顔を忘れられません。彼らの未来の為に少しでも貢献出来たことはとても嬉しいです。現地の通訳をしてくれた方々や学校の先生たちとたくさんコミュニケーションをすることが出来ました。お互い楽しむ事ができて良かったです。またお会いできる日が待ち遠しいです。言葉の壁を感じながらも、一緒に汗を流し、遊び、共に時間を過ごす中で、国際理解を深めることが出来ました。今回の渡航を通して、日本の豊かな生活が当たり前ではないこと、世界には様々な人がいること、そして多くの人々が困難な状況にあることを改めて実感しました。それらは、たくさんのご支援や同じ志を持つplus+のメンバー、現地で協力して下さった方々、両親のおかげです。感謝申し上げます。私は今回の渡航経験を活かし、今後もたくさんの方に挑戦し、ボランティア活動なども続けていきたいです。

### ・平野楓(外国語学部 外国語学科 中国語・グローバルコミュニケーション専攻)

渡航前からカンボジアについて調べたり、小学校で行うイベントについて一から企画してルールを考え買い出しを行ったり、安全祈願を行うなど渡航のためにたくさん準備し、時間を使ってきました。そのため今回このように無事に渡航が成功し帰国できて本当によかったです。初めてカンボジアという国へ訪れて文化の違いや普通概念が違うことに気づくことができ、自分の視野を広げることができたと思います。カンボジアの小学校では追いかけてサッカー、手遊びを教えてもらいながら自由時間を思いっきりあそびました。plas+が準備したウォーターフェスティバルでは水鉄砲と水風船を使いながら、plas+のメンバー含めみんなでびしょびしょになって楽しみました。運動会では綱引きや二人三脚、かけっこを行いました。自分も久しぶりに運動会というものを経験し、子供達とともに全力で取り組みました。子供たち

とたくさん触れ合ってお菓子や手紙、シールなどをもらうことができ嬉しかったです。メンバーとも渡航を通してよりいっそう仲を深めることができましたと思っています。とても良い経験になりました。また行きたいです。

#### ・大野シーナメイ(外国語学部 外国語学科 中国語・グローバルコミュニケーション専攻)

今回のカンボジアの渡航で一番印象に残っていることは、教室の数が少なかったことです。日本の小学校では、学年を6つに分け教育を施します。そして、各年代に見合った学習をします。しかし、カンボジアで訪れた小学校2つのどちらも教室が3つしかなかったことを覚えています。そこに、教育水準の差や人口の差を感じました。また、実際に渡航をしてみることで、生活水準の差というのを感じました。小学校の子どもが飲み終わったペットボトルをすぐに地面に落としていました。そのため、道路の至る所にゴミが散乱しています。ポイ捨てがいかに環境に悪いことかを教え、次の世代の子どもたちがポイ捨てをしないように悪い連鎖を断ち切るべきだと思いました。

#### ・内田実花(国際学部 国際学科 国際交流・国際協力専攻)

今回、8月の渡航に行くことができ心から良かったと思っています。発展途上国を自分の目や肌で感じこれからの学習の理解をより深めたいという理由と、海外でのJICAのようなボランティア活動を経験してみたいという理由で参加しましたが、それ以上の学びと喜び、人との繋がりを得て帰ってくることができました。現地では日本で過ごしていた自分がいかに恵まれていたかを目の当たりにしたのと同時に、日本とは違う豊かさとは何かということも見れた気がしました。自分たちで遊びを生み出し楽しむ笑顔や毎日のように夜みんなで歌って楽しんでいる姿が日本とは異なる光景だと思いました。また現地の子供たちと話して将来どういう職業に就きたいのかや日本のことをもっと知りたいという思いを感じ、より教育に力を入れられるような支援をしたいと感じました。カンボジアの人々の優しさを本当に感じ、ボランティア活動と現地の歴史や文化を学べたとても発見のある渡航となり大満足でした。陰で沢山計画し動いてくださった先輩、一緒に渡航したメンバーに感謝でいっぱいです。次回の渡航の計画は自分たちがカンボジアの人が必要としている事物を聞いてきた話からよく理解し、行っていくのでより有意義な渡航になるよう今回の経験を後期で活かしていきたいと思っています。

## 8. 終わりに

コロナ禍後2度目の渡航を実現し、現地でしか分からないことがあるということ、現地で直接触れ合って交流することや、直接支援活動を行う大切さなどを再び実感いたしました。現地でなくては得られなかった体験や情報を、メンバーそれぞれが持ち帰ることができたと思います。今回、自らの目で見てきた現状をもとに、次に取り組むべき課題を発見することができました。

そして、「かたちに残る支援をする」ことも今回の渡航目的の一つでした。前は交流をメインとした渡航のためイベントは開催しましたが子供たちの生活に何かを残すことはできませんでした。しかし、今回の渡航では、交流と支援を兼ねた二つの建設プロジェクトと交流イベントを行ったことで、その目的も達成することができました。

さて、設立から10年を迎える本団体は、これまで様々な支援を行ってまいりました。この度支援先の小学校の先生方や地域の方々とのコミュニケーションを通して、これまで先輩方が築き上げてきた信頼や成果を実感いたしました。私たちはこれからも、“Present Love”の精神を胸に、新たな支援活動に向けて動き続けて参ります。

最後になりますが、本団体は多くの皆様にご協力を頂き、継続的な活動を実現できております。

一般財団法人麗澤海外開発協会「RODA」の皆様  
麗澤大学後援会  
千葉県モラロジー協議会  
麗澤幼稚園  
柏市立光ヶ丘小学校  
モラロジー道徳教育財団 学校教育センター  
活動をサポートして下さった先生方  
クラウドファンディングにご協力頂いた皆様(以下の皆様)  
宮井祐子様、行方誠様、鈴木強様、箕輪有人様、柴崎亮介様  
現地のカウンターパートナーや小学校の先生方  
本団体を応援して下さっている皆様

メンバーを代表して心より感謝申し上げます。  
今後も、カンボジアの子どもたちの笑顔のため、メンバー一同活動に励んで参ります。

(2024年度代表:鈴木大翔)

